

韓国・麗水万博訪問記

韓国南部の麗水(ヨス)で開催された海洋 EXPO を見学した(開催期間は 2012 年 5 月 12 日~8 月 12 日)。世界 104 カ国と国連など 10 の国際機構が参加して、800 万人(推定)が訪れて行われた。麗水 EXPO のテーマは“The Living Ocean and Coast”(生きている海、息づく沿岸)であり、サブテーマとして「資源の多様性と持続可能な活動」を掲げていた。海洋汚染の深刻化、海洋生態系の破壊、海面の上昇など、海洋に関する地球的課題について、その対策を模索することをめざしていた。

万博の分類: 国際博覧会条約によれば、万博は一般的・総合的な内容の登録博覧会(登録博)と、特定・専門的な内容の認定博覧会(認定博)に大別され、前者が 5 年おきに開催されて期間が 6 ヶ月以内であるのに対して、後者は登録博の間に 3 ヶ月以下の期間で行われる。麗水万博は海洋にテーマを絞った認定博であり、2010 年に開催された上海万博は登録博である。

麗水万博は海の保全をメインテーマに掲げながらも、資源・エネルギー源としての海洋をいかに利用するかという点も強調されており、地球温暖化や海面上昇、資源の枯渇等に対してどう対処するかという問題に対して“Technology & Innovation”、“Solutions”という言葉をよく見聞きした。

主な展示施設としては、韓国最大規模で世界の希少種が見られる大アクアリウム(水族館)、使われなくなったセメントサイロを再利用してパイプオルガンも設置したスカイタワー、シンボリックな施設 Big-O を配して各種イベントも行われる海洋公園、それぞれの趣向を凝らした国際館や企業館等のほかに、韓国料理を始めとして和・洋・中や軽食が楽しめるレストランが設置されていた。

今回、麗水万博を訪問した主な目的は、各館の展示法について学ぶことと、オマーン館で展示されているマングローブに関する展示を見学することだった。クジラ等の鳴き声が聞けるドイツ館、クイズや体験を通して学べる工夫をしていた海洋ベスト館、人工干潟のジオラマを設置した海洋生物館等々さまざまな特色ある展示が見られた。オマーン館ではウミガメやマングローブ等の展示をしており、マングローブの種子や葉をプラスチックに封入したものは来場者の興味を集めていた。



動物の鳴き声体験(ドイツ館)



クイズ形式の展示(海洋ベスト館)



人工干潟(海洋生物館)



マングローブの展示(オマーン館)

万博を開催する意義は、新しく開発された技術や将来実用化されそうなアイデアを展示することのほかに、イベントという遊びの場を通じてたくさんの人々が共通のテーマについて考える場や機会を提供することである。今回、外国人の来場者が少なかった(約 40 万人)のはやや気になるが、多くの韓国の子供たちが見学に来ていた。この万博は、彼らにとって最新の技術を実際に見たり、海や環境を考えるいい機会になったのではないだろうか。

(2012 年 7 月 湖東)



水族館のトンネル型大水槽



マスコットのスンとヨニ

麗水への行き方: 空路の場合はソウル・金浦空港から麗水空港へ。陸路は EXPO 開催に伴って韓国新幹線(KTX)が麗水まで延長された。また万博期間中は博多港から高速船が運行されていた。